

# ステップアップ ESD

## —上部消化管編

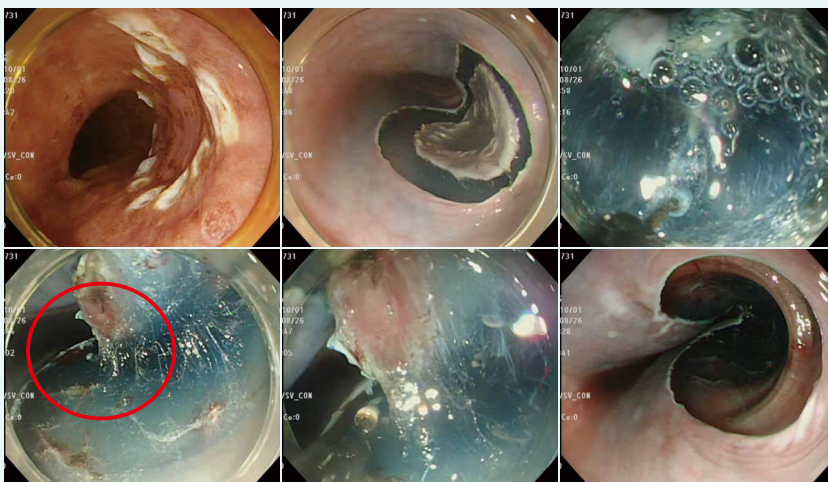
執筆：小野裕之（静岡県立静岡がんセンター内視鏡科部長/副院長）



本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。  
▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。  
▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。  
▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

Introduction	p1
1. なぜステップアップが必要なのか	p3
2. 技術を磨こう—見取り稽古をしよう	p3
3. 技術を磨こう—エッジをつくろう	p5
4. 技術を磨こう—道具を使おう	p7
5. 患者とともに方針を考える	p9
6. 専門医療機関ではここまでできる	p12



▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

# Introduction

---

## 1. なぜステップアップが必要なのか

- ・内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) がうまくなりたい!
- ・今以上に、患者を自分で治したい
- ・テクニックに行き詰まりを感じている
- ・内視鏡的根治度Cの患者を外科に丸投げしていた自分に気づいた

## 2. 技術を磨こう — 見取り稽古をしよう

- ・意外に役に立つ見取り稽古。達人の技やタイミング、動きなどを見て盗み、学ぼう
- ・ESDのライブデモンストレーションへの参加や、自分の好みのデモンストレーターのDVD映像を繰り返し見る

## 3. 技術を磨こう — エッジをつくろう

- ・ITナイフは先端がセラミック球で覆われているので、筋層に押しつけても比較的安全に切開が可能である
- ・エッジをつくる意味 — まず粘膜の切開を行い、そのあとの粘膜下層剥離をやりやすくするために、エッジをつくる
- ・エッジのつくり方

## 4. 技術を磨こう — 道具を使おう

- ・道具を使う意味
  - ・マルチベンディングスコープと糸つきクリップ
- 糸つきクリップは、どこを切ればよいかわかるように粘膜下層をきれいに

展開させられる

- ・糸つきクリップをつくろう
- ・糸つきクリップを使おう

## 5. 患者とともに方針を考える

- ・適応と根治性の規準について理解しよう
- ・相対適応病変をどう理解し，説明するか
- ・胃癌の標準治療は外科手術であるが，局所治療であるESDを行うことのメリット（低侵襲など）とデメリット（リンパ節転移に対しては無力であることなど）を患者にきちんと説明し，そのリスクを了解してもらう
- ・内視鏡的根治度C-2（eCuraC-2）病変をどう理解し，説明するか

## 6. 専門医療機関ではここまでできる

- ・胃底部の大きめの病変
- ・SMがんの局所コントロール

# 1. なぜステップアップが必要なのか

---

現状に満足している人にはステップアップは必要ない。うまくなりたい！ 最近伸び悩んでいる、自分で内視鏡的粘膜下層剥離術 (endoscopic submucosal dissection: ESD) をしたいが、技量的にハイボリュームセンターに送らざるをえない、などと思った人はステップアップが必要であるし、ステップアップできる。

また、ESD後の病理結果を見て、「内視鏡的根治度Cだから外科受診ね」と漫然と外科に丸投げしていたが、それが本当に患者の意思を尊重しているのかと、ある日気づく場合もあるだろう。

技術と知識の向上が必要と思ったときから、ステップアップが始まる。

本コンテンツは、ノウハウを提示し、実地に役立つ「使えるコンテンツ」にするというコンセプトである。

技術に関しては、文章を読んでもおそらくうまくなならない。ESDの手順を最初から最後まで普通に記載しても、本コンテンツを読んで頂いている、ステップアップをめざす諸先生方にはあまり役立たないと思われる。そこで、筆者がワンランクアップするために必要と考える技術のポイントを数点にしばって図と動画で解説する。

知識についても、適応については相対適応病変への内視鏡医としての立ち位置を、切除後の治療戦略については根治度C病変について、患者にどのように説明していくかという点を解説する。

## 2. 技術を磨こう — 見取り稽古をしよう

---

武道の世界では、見取り稽古という言葉がある。達人の技やタイミング、動きなどを見て盗み、学ぶことである。当院のレジデント達を指導していると思うことだが、最初の1年は正しいルーチン内視鏡検査のやり方を学び、さらに病理などのローテーションを行う。1年の間に500例以上のESDを